Keep Innovating.
京都産業大学

News Letter 創刊号

発行：京都産業大学 教職課程教育センター

目　次

1．ご挨拶
2．教職課程教育センターのご紹介
3．教職イベントのご紹介
4．新任教員の声
5．教育実習生の声
6．教員採用試験合格状況
7．研究紀要のご紹介
8．情報提供のお願い

＜ご挨拶＞

教職課程教育センター　ニュースレター創刊に寄せて

教職課程教育センター長　　西川　信廣

卒業生の皆様に於かれましては益々ご活躍のこととご拝察申し上げます。

この度、京都産業大学教職課程教育センターでは、主に教育現場でご活躍の卒業生の皆様にニュースレターをお送りすることになりました。京都産業大学の教職課程教育の現状、４年次生の進路状況などをお知らせし、合わせて教育の現場でご活躍の卒業生の皆様から様々なコメントを頂戴することで卒業生と現役学生、卒業生相互の交流を活性化したいという考えからの創刊でございます。

京都産業大学は 2015 年に開学 50 周年を迎えます。これまでの 50 年を振り返ると共にこれからの 50 年を見据えた取組が進められています。本ニュースレターの創刊もそれらの取組の一貫でもあります。本学は現在８学部を有する総合大学ですが、全ての学部に教職課程を開設し、教育現場に優秀な人材を排出しております。現場では校長職に就いておられる方、教育委員会で指導的立場に就いておられる方も多数おられます。しかし、これまでは残念ながら卒業生と現役学生、卒業生相互の交流、研鑽の場は一部の学部の取組に限られており、全学的な取組は具体的には設定されておりませんでした。別項に掲載しておりますように、今年度からは「京都産業大学教職フォーラム」を開催し、交流と研鑽の場を設けることと致しました（11 月９日開催）。卒業生の皆様におかれましては、公私ともご多忙とは存じ上げますが、何卒一人でも多くのご出席を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今日の教職課程教育（教員養成政策）の改革動向と本学の取組について少しご報告させていただきます。教育現場でご活躍の卒業生の皆様に於かれましては既にご承知のことかと存じますが、2000 年前後からの規制改革の流れの中で、小学校教員養成をいわゆる総合大学でも認める政策が進められました。関西でも大手の私大では小学校教員養成課程を開設し、小学校教員養成に参画する大学が増えております。背景には施設一体型小中一貫教育校に代表される小中一貫教育（６－３制義務教育の弾力化）が広まり、中学校教諭免許状と小学校教諭免許状を有する教員が求められているということもあります。

本学でも 2006 年に佛教大学、2007 年に聖徳大学の通信教育課程の併修制を導入し、本学で中学校教諭一種免許状を取得することを条件に、小学校教諭免許状の取得を可能にしました。結果、近年では京都産業大学を卒業した小学校教員も毎年数名ずつ現場に出ております。

また、規制改革の方向性とは逆行するという見方もありますが、教員養成の６年制化、すなわち大学院の修士課程修了を基礎資格（必修化）とするという議論も出始めております。とりわけ小・中学校教員を希望する者に対して、実践的指導力を形成するという名目で「専門職大学院（教職大学院）」での長期現場実習を課するという趣旨の改革案です。学部４年では「基礎免許」のみの取得とし、大学院修士課程修了者に対して「一般免許」を与えるという案ですが、これには学生の負担が大きくなり過ぎる、「教職」大学院の教育内容が確定されていない（現場任せ）などという批判もあります。同時に自民党の教育再生実行本部では、大学院修士課程を必修化するのではなく、学部卒業後２～３年のインターン期間を課して、その後正式採用に至るべきという案も出されるなど、教職課程教育（教員養成政策）の方向性は混沌としています。

免許状更新講習も法制化されました。当初、その管理的な側面が懸念され、民主党政権下では廃止を検討されたこともありましたが、各大学の努力もあり、良い研修の機会として定着しつつあります。本学も年度によって開催講習の内容に若干の違いはありますが、免許状更新講習にも積極的に参画しております。本学ＨＰ等でご確認の上、講習会参加もご検討ください。

今日の教育現場は、様々な教育課題に直面し、先生方に於かれましては日々多忙を極めておられることと存じます。授業外のことで忙殺されているとの声も聞きます。しかし、現役の学生は教職への夢と希望を持ちながら懸命な努力を続けております。卒業生の皆様からの一層のご支援、ご指導をお願いします。彼らにとってはそれが一番の元気となります。よろしくお願いいたします。

文末ではありますが、皆様の更なるご活躍を祈念しまして結びといたします。京都産業大学で再会出来ますことを楽しみにしております。

＜教職課程教育センターのご紹介＞

教職課程教育センターは、センター長と各学部から２名ずつ選出された教員による運営委員会のもとに、教職課程の編成、教育実習生・介護等体験履修生・教職ボランティア学生への支援と指導、教員採用試験受験対策、教職大学院への進路支援、小学校教諭免許状取得のための併修支援、教職課程機関誌の発行及び免許状更新講習の実施等を主な業務として、７名の事務局スタッフとともに教職課程の運営と推進に取組でおります。

本学の教職課程は現在、全８学部 19 学科、大学院７研究科 10 専攻及び大学院通信教育課程１研究科１専攻で、文部科学省から教員免許課程の認定を受けています。

平成 26 年度に外国語学部の学科改組並びに大学院生命科学研究科生命科学専攻の修士課程開設に併せ、文部科学省に教員免許課程の認定を申請中です。

具体的には、外国語学部の英語学科に教科「英語」、ヨーロッパ言語学科に「英語」「ドイツ語」（ドイツ語専攻）「フランス語」（フランス語専攻）、アジア言語学科に「英語」「中国語」（中国語専攻）、国際関係学科に「英語」の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状、また、大学院の生命科学研究科生命科学専攻に教科「理科」の中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状を申請し、教職課程の設置と整備に努めております。

＜教職イベントのご紹介＞

１．教員免許状更新講習

教職課程教育センターでは、今年度も教員免許状更新講習の開設を予定しています。12 月に選択領域７講座を開設する予定ですので、ぜひご参加ください。詳細につきましては、本学ＨＰにてご確認ください。

◆ URL：http://www.kyoto-su.ac.jp/

２．教職フォーラム

教職課程教育センターでは、教育分野でご活躍されている卒業生の皆様と教職をめざしている在学生との交流会として、下記のとおり「教職フォーラム」を開催いたします。参加申し込み等は不要ですので、ぜひ、ご参加ください。

◆日時：平成 25 年 11 月９日(土)13：30～16：00
◆場所：本学５号館３階 5303 教室
◆内容：
①本学卒業の現職教員による実践報告
②現職校長による講演
講演テーマ：～「現代学校論」多角的視点から学校現場を解剖する～
③卒業生、在学生によるディスカッション

＜新任教員の声＞

京都府立南陽高等学校
遠山　裕貴 先生

平成 25 年３月に大学院を卒業し、４月から京都府立南陽高等学校の教諭になりました。教科は理科で、今年は物理や物理基礎を担当しています。

京都産業大学および大学院では小さい頃から興味を持っていた天文について研究し、物理・地学に関する知識や考え方を身につけました。また、SPP や出前授業、高大接続授業のサポートを積極的に行うことにより、子ども達や教育に関わる経験を重ねることができました。

大学院２年の頃は研究やアルバイト、非常勤講師などで非常に忙しい日々を過ごしていましたが、その経験のおかげで今の多忙な日々を乗り越えられているのではないかと思います。

南陽高校は山城通学圏でトップの進学校なので、理系には入試で使える力をつけさせる授業、文系には物理に興味を持ってもらう授業というのを心がけています。しかし、実際はなかなか難しく毎回試行錯誤しながら教材研究を頑張っています。部活動はテニス部の顧問をしており、毎日コートに行き部員の様子やチームの雰囲気を見ていると自分の行動や言葉で変化するのが分かり、生徒の成長を感じることができます。

日々の業務は分掌や部活の仕事、教材研究等、生徒と関わらない仕事も多く、初任で慣れていないこともあり、学生の頃の想像を越える忙しさですが、授業中や部活動中など生徒と関わることはとても楽しいです。自分の努力が生徒の成長につながるよう、これからも頑張っていきます。

在学生の皆さんは、たくさんの子ども達と関わることができ、成長を感じられる教師という職業を目指して頑張ってください。

＜教育実習生の声＞

理学部数理科学科
野村　俊之

６月、私は出身校である福井市明倫中学校で教育実習を行いました。実習前は不安な気持ちを持っていましたが、私が担当した学級は元気な生徒が多く、活気に充ち溢れ、彼らの笑顔を見ただけで当初の不安はあっという間に無くなりました。

私が授業を行った日には、指導教員から厳しくも暖かい指導をいただきました。特に指導いただいた点は、個々の生徒の理解に対応した授業についてでした。「私は、生徒が理解できる授業を行えるだろうか。」と教育の原点である授業に対して不安を覚えることもありました。それでも、少しでも早く生徒が楽しく理解できる授業を行えるよう、生徒のために頑張ろうと自分を叱咤激励し、前に向かって進むことができました。

特に授業中、積極的に質問してくれる生徒がいたので、私もその想いに懸命に応えました。その生徒が分からなかったところを理解できたとき、すごく嬉しそうな表情で「ありがとうございました」と言ってくれました。そのとき、私は大きな達成感を味わい、これこそが教師という仕事の生きがいであると改めて実感することができ、教員をめざす気持ちが一層高まりました。たった３週間の教育実習でしたが、中学校における指導を経験し、教師としての使命感を味わうとともに、教育という営みの素晴らしさ、教職の重要性の理解を少しは深めることもできました。

教育実習で学んだことを今後の大学生活に生かし、立派な教師になれるよう全力で取り組んでまいります。

＜教員採用試験合格状況＞

公立学校教員採用試験合格者数（現役）

学部／年度	経済学部	経営学部	法学部	外国語学部	文化学部	理学部	工学部	コンピュータ理工学部	計
平成21年度		小(1)	小(1)	小(1)中(2)	中(1)	中(4)			10
平成22年度				小(1)	中(1)	小(1)中(3)高(2)			8
平成23年度		高(1)	小(3)中(1)	中(2)		小(1)中(5)	中(1)		14
平成24年度		小(1)	高(1)	高(1)	小(1)	中(4)			8
平成25年度		小(1)				中(6)高(1)	高(1)		9

＊科目等履修生・大学院生を含む

＜研究紀要のご紹介＞

教職課程教育センターでは、毎年４月『京都産業大学教職研究紀要』を刊行しております。本学をご卒業された現職教員または教育機関にお勤めの皆様にもご投稿いただくことが可能です。皆様からの積極的なご投稿をお待ちしております。

＜投稿要領＞

１．投稿種別　　実践記録
２．原稿量　　400 字詰め原稿用紙 50 枚以内
３．掲載内容
(1)原則､教職課程における教職及び教科に関するもの
(2)未発表のもの
４．投稿方法
(1)原稿は、教職課程教育センターに提出する
(2)原則、ワードで作成し、ファイルを保存した記録媒体を提出すること。ただし、レイアウトは自由
(3)邦文及び英文のタイトルと要旨を添付する
(4)提出時期は、当該年度の 11 月末とする。これを過ぎた原稿は次年度に回す

＜実践記録　掲載一覧＞

創刊号掲載
『教育改革と市町村教育委員会 - 大阪府摂津市教育委員会の取組を中心に - 』

第２号掲載
『小中一貫教育のめざすもの - 吹田市立竹見台中学校・千里たけみ小学校の取組と今後の課題 - 』

第５号掲載
『学校事務職員の職務とその可能性 - 寝屋川市の取組を中心に - 』
『京都産業大学の多読プログラム：進化と発展を検証する』

第６号掲載
『特区における小学校英語活動の長期的効果の研究』

第８号掲載
『複式学級における学校図書館活用に関する一考察 - 島根県大田市Ｔ小学校の実践から - 』

※研究紀要のバックナンバーについては、本学の電子公開書庫「学術リポジトリ」にて閲覧可能です。
URL：http://ksurep.kyoto-su.ac.jp/dspace/

＜情報提供のお願い＞

教職課程教育センターでは、教育分野でご活躍されている卒業生の皆様と交流を深め、ネットワークの構築をめざしています。

この機会に、卒業生の皆様から教職に関する各種情報や、ご自身の近況報告などの情報をご提供いただきたいと存じます。

また、教職をめざしている在学生との交流や免許状更新講習のご案内なども行っていきたいと考えております。

情報のご提供の際は、下記アドレス宛に① 氏名（ふりがな)､② 卒業年度､③ 卒業学部､④ 勤務先､⑤ 担当教科をご記入のうえ、ご連絡いただけましたら幸いです。

また、お知り合いの方で本学を卒業後、教育分野でご活躍の方がいらっしゃいましたら、併せて、ご連絡いただきますよう、お願いいたします。

＜発行・お問い合わせ先＞

＜発行＞
News　Letter　創刊号
発 行 日：平成 25(2013)年 10 月 1 日
編集発行：京都産業大学 教職課程教育センター

＜お問い合わせ先＞
京都産業大学 教職課程教育センター
〒603-8555　京都市北区上賀茂本山
TEL：075-705-1479 ／ FAX：075-705-1448
E-mail：kyoushoku-center@star.kyoto-su.ac.jp